

第1回ラ・クラシック全国プレバレエコンクール 総評

<課題曲部門>

課題曲部門はよく踊れている方が多く、日頃の丁寧なレッスンの様子が目に浮かびました。一つ一つの動きの意図を考えながら踊れている方が多かったと思います。

体の使い方としては、鎖骨・肩甲骨の押し下げにより上半身の引き上げが不足している方や、腹圧が抜けている方が多く、バレエのテクニックを身につける以前の基礎を見直していただくことで、よりよく踊る基礎が作られるかと思えます。

また、踊りの型や手や足のポジションに集中するあまり、自分の体の感覚と動きを繋げることができていない生徒さんも一部見受けられました。ぜひ先生方には、手の位置や足の位置など外側の形だけではなく、その位置に手足を置くためにはどうしたら良いのかという「動きの始まりの感覚」をご指導いただければと思います。動きの根源を変えることは、子どもの体の可能性を大きく広げる最善の方法です。

<ヴァリエーション部門>

ヴァリエーション部門に関しましては、まず第一に基礎的な訓練が不足されている方が多く、ヴァリエーション部門の前に、課題曲部門に参加された方が良いのではないかという声も審査員の先生方から多くいただきました。

課題曲部門と同じく、上半身の使い方への理解が不足し、鎖骨・肩甲骨が動かない方が多く、またコアの使い方などの基盤が抜けているため、ヴァリエーションを踊るための準備ができていない方が多い印象です。当プレコンクールには「プレパラトワール」という言葉をつけていますが、一般的なコンクールよりレベルの低い、気楽な立ち位置としてのプレコンクールというものではなく、「自分らしくバレエを踊るための準備をきちんとする」という趣旨でのプレコンクールとなっております。

難しいことに挑戦する前にやるべきことをきちんと習得することは、今後長く美しく踊るために何よりも大切なことです。課題曲部門はヴァリエーションにチャレンジするための体作りを行う内容となっておりますので、ぜひこちらも合わせて次回挑戦していただきたいと思えます。

両部門ともに、日頃のレッスンでご自身のターンアウトの能力を超えた、足先だけの無理なターンアウトを行なっているのではないかと思われる生徒さんが多く見受けられました。

バレエの型やポジションはとても大切なものですが、型を重視することで、子どもの体の筋肉や動きの源が崩れてしまっは本末転倒です。

ぜひ、「型」と「実際の体の動き」の折り合いについて考えていただき、使うべき筋肉をきちんと使い、内側から外側へ動きが派生するというのを追求していただきたいと思えます。

また、先生方にも子どもの未来につながる指導というものを今一度見直していただくことをお願い申し上げます。幼少期における質の高い訓練は、その後の人生を大きく変えます。

体の使い方の側面からのお話ばかりになりましたが、常に音楽と共にあることは、バレエにおいて体の使い方と同等に非常に大切なことです。表現豊かな生徒さんもおられました。さらに音をしっかり取ること、音楽から感じられるリズム感や拍感、拍子の感覚、また、曲のイメージの変化等を自らが感じ、全身で表現することを心がけていただきたいと思えます。体の使い方と同じく、音楽に関しても、表面的ではない内面からの表現として、さまざまな緩急がつけられるようになることが豊かに踊るために大切です。音楽と体が調和した心地よい踊りを目指して、日々の練習を重ねてください。

正しい努力は必ず実を結びます。また次回、皆さまの成長されたお姿を拝見できますことを心待ちにしております。